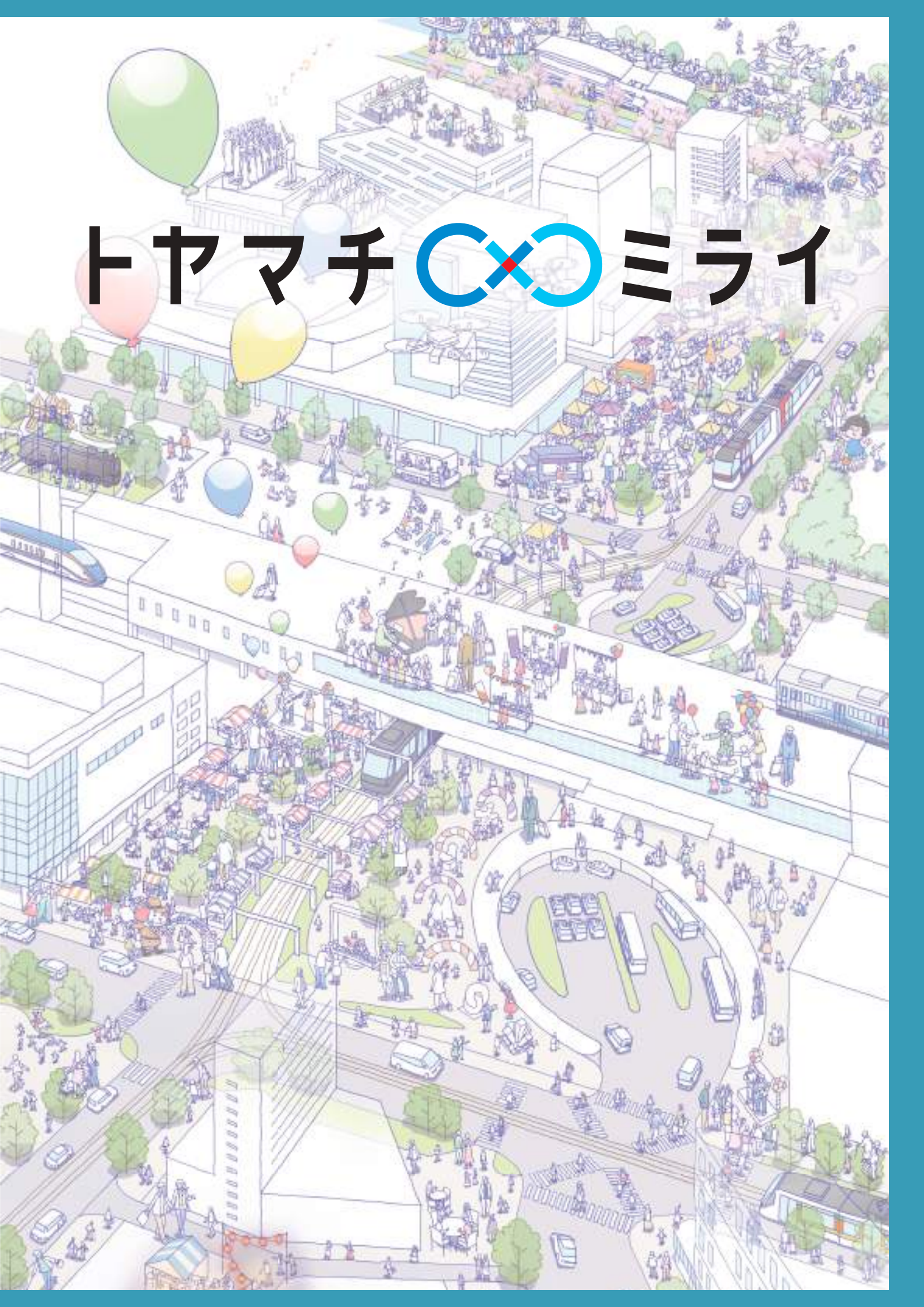
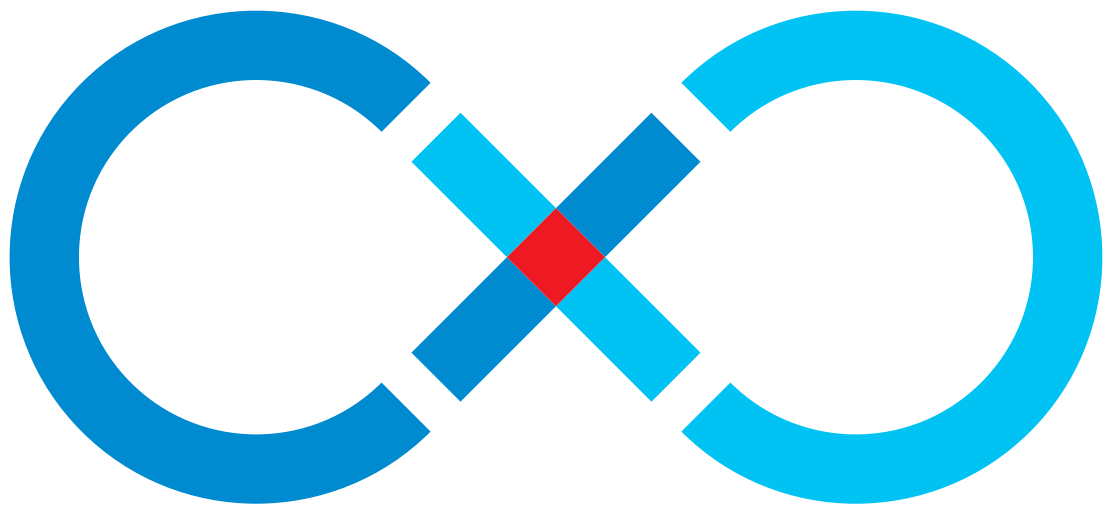


トヤマチ ∞ ミライ



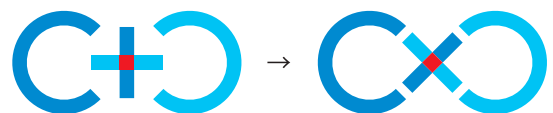


トヤマチミライ

トヤマチ∞ミライという言葉には…

無限の可能性を持つトヤマのまちのミライを想い、終わりなき未来への共創、連携した活動を続けていくという願いが込められています。

このロゴマークは「富山駅路面電車南北接続開業」のシンボルマークである「+」プラスから「×」カケルに発展し、人、空間、エリアがつながり、むすばれることを「∞」で表現したデザインです。



INDEX

序章 未来ビジョンのプロローグ

1. 富山駅周辺エリアの沿革	1
2. いまなぜ「未来ビジョン」なのか	3
3. 未来ビジョン策定のプロセス	4
(1) 策定体制	4
(2) プラットフォームの活動経緯	5
4. 未来ビジョンの対象エリア	6

第Ⅰ章 現状・課題

1. 富山駅周辺の分析	7
(1) 富山駅周辺の強み	7
(2) 富山駅周辺の弱み	9
2. 課題の整理	10

第Ⅱ章 未来ビジョン

1. 未来ビジョンの合言葉	11
2. 将来イメージ	12
3. 目指す姿	13
4. 基本姿勢	14

第Ⅲ章 アクションプラン

1. 新たなプラットフォームの役割	15
2. 各エリアのプラン	16
(1) 富山駅南エリア	16
(2) 富山駅エリア	18
(3) 富山駅北エリア	20

第Ⅳ章 新たなプラットフォームの運営体制

1. 運営体制	23
(1) 多様なプレイヤーが連携できるプラットフォームづくり	23
(2) 実施プロセス	24
(3) 情報共有・発信	25

参考資料

社会実験概要	26
(1) 意識醸成	26
(2) 賑わい創出	27

つなぐ、
むすぶ

序章

未来ビジョンのプロローグ

1. 富山駅周辺エリアの沿革

神通川は、古くは現在の富山市中心部付近で大きく蛇行して流れており（現在の松川、いたち川）、富山城の防御線となる一方、蛇行部の南側に城下町として発展した富山町には氾濫によりたびたび水害をもたらしました。その治水対策として明治34～36年にかけて、バイパスとなる馳越水路が開削され（現在の神通川）、明治41年、蛇行する神通川と馳越水路に囲まれた現在地に富山駅が開業しました。

静かな田園地帯は、駅の開業により風景は一変しました。駅前（駅南）にはまず旅館や運送会社が開業し、私鉄線やバスなど交通の結節点となると、商店も立ち並ぶ新たな繁華街が形成されました。

元の神通川は、小さな松川となり、中心市街地と駅前（駅南）繁華街の間に、広大な荒地（廃川地）が横たわり、都市発展の障害となったことから、その解消のため、昭和10年、都市計画により、富山港と駅北を結ぶ富岩運河の掘削土によって旧流路が埋め立てられ、埋立地や駅前（駅南）には新たな街路網が整備されました。こうして駅前（駅南）繁華街は中心市街地と一体化し、富山駅南は県都富山の玄関口になりました。



出展：神通川とその流域史

昭和20年8月の空襲により市街地が焦土と化し、戦後の戦災復興計画により、碁盤目状の道路網や駅前（駅南）から放射状に五本の街路が配置され、駅を中心とした交通網が整備されました。復興計画が進められる中、罹災後まもなく建てられたバラック駅舎は玄関口としてふさわしくないとして、地元も資金の一部を負担する「民衆駅」方式で改築され、昭和28年に竣工し、翌29年にはロータリー式の駅前広場も完成し、新たな玄関口の完成により、駅前には戦後の新たな繁華街が形成されました。



出展：富山戦災復興誌

一方、駅北には大きな池が存在したことや、線路によって分断され、さらに南北のアクセスが十分でなかったため、駅南とは大きく異なる景観が広がり「駅裏」と呼ばれていました。池は昭和30年代はじめまでには埋め立てられ、昭和33年の富山国体に合わせて駅北口が供用を開始され、変化が始まった駅北でしたが、まだ駅北は暗い「駅裏」のイメージでした。

昭和63年「とやま都市 MIRAI 計画」が策定され、水辺空間の有効活用を図り、新たに駅北の再整備を進めることとなり、運河の船溜は新たに富岩運河環水公園として整備され、市民のみならず観光客も集う空間へと生まれ変わりました。さらに駅北口から延びるブルーバールや牛島公園、富山市芸術文

化ホール(オーバードホール)、富山市総合体育館などの公共施設や北陸電力本店、アーバンプレイス、オークスカナルパークホテル富山などの民間施設が整備され、駅北は急速にその姿を変え、「駅裏」から「駅北」へと変貌を遂げました。

計画決定から約50年を経た平成27年3月、北陸新幹線が開業しました。駅舎は一新し、富山駅周辺では県都富山の顔としての整備が進められています。

そして、令和2年3月にあいの風とやま鉄道線やJR高山本線の高架化により、富山駅南北自由通路が開通し、路面電車の南北接続が完成したことにより、富山駅の南北の行き来が地上で行えるようになり、人の流れは大きく変わりました。富山駅の南北一体のスタートであります。今も駅南には新たな商業施設やホテルが開業し、駅北ではブルーバール広場の再整備やオーバード・ホール中ホールの建設が進むなど、富山駅周辺エリアにおける期待は一層高まっています。

■近年の富山駅周辺整備

平成27年3月	北陸新幹線開業
平成28年3月	南口駅前広場完成
令和2年3月	路面電車南北接続
	南北自由通路完成
令和4年3月	JR富山駅ビル開業
	北口駅前広場完成
令和5年度	ブルーバール広場完成予定
	オーバード・ホール中ホール開館予定



南北接続した富山駅

2. いまなぜ「未来ビジョン」なのか

富山駅は、令和の時代を迎え、南北自由通路の開通や路面電車の南北接続により、人の流れが劇的に変化し、富山駅の前、裏という言葉は過去のものとなりました。新しく生まれ変わった富山駅周辺エリアには、私たち民間事業者だけでなく、これからの富山市を担う若い世代からも、どのようにまちが成長していくのか期待されています。だからこそ、今、それぞれが思い描く富山駅周辺の未来を行政とも連携しながら、富山駅の南・北とを隔てることなく、一体的に考えていかななくてはなりません。

富山駅周辺エリアにおいて、富山駅の南側エリアでは「富山駅周辺開発協同組合」「富山賑わいプロジェクト実行委員会」、富山駅エリアでは「富山駅周辺賑わいづくり実行委員会」「富山 myroute 推進協議会」、富山駅の北側エリアでは「ブルバールエリアマネジメント富山」「富山駅南北交流人口創出事業実行委員会」など多くの団体が活動しています。

各団体が、今まではそれぞれで行っていた「点」の活動から、連携した「面」の活動による新たな富山駅周辺エリアを作り上げていくためのデザインブックとして、「トヤマチ∞ミライ」を策定しました。

私たちは、このビジョンを共有しながら、それぞれの団体等が富山駅周辺エリアの持続的にぎわいの創出や発展のために、互いに情報共有・情報発

信等の連携を図り、富山駅周辺エリアが居心地よく愛される空間となることを目指します。

そして、各エリアにおいて、それぞれのプレイヤーが今できる小さなことから始め、小さな社会実験を繰り返し、エリアの魅力を知ってもらいます。魅力が伝わり、そこに行けば何かある、いつも何かしているという意識づけがされれば、人の動きの流れが変わる要因となります。人が集まることで小さく始めたことをまた少し大きくします。そうすることで少しずつエリアの魅力を高め、富山駅周辺エリアが市民の空間、居心地の良い人が集まる空間となっていくことを目指します。



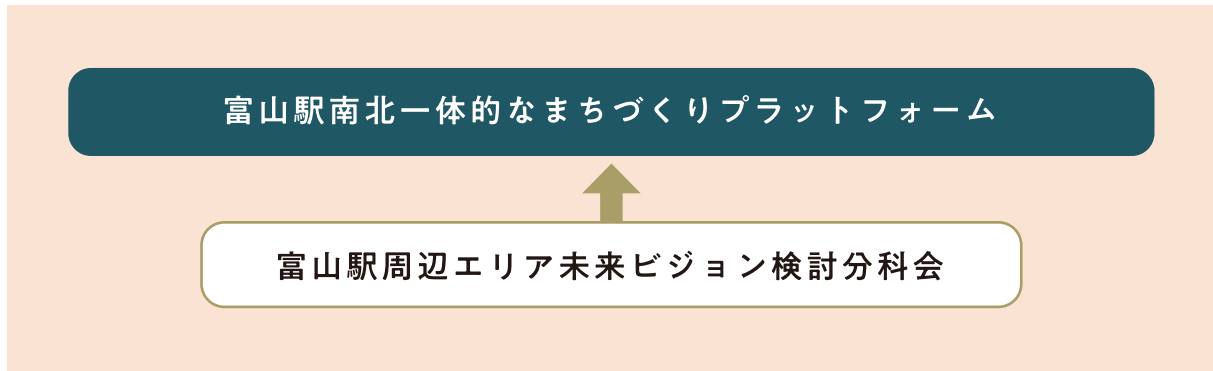
北口駅前広場



官民連携イベントの様子

3. 未来ビジョン策定のプロセス

(1) 策定体制



[プラットフォーム委員]

団体・企業名	役職	氏名
あいの風とやま鉄道(株)	代表取締役社長	日吉 敏幸
富山駅周辺開発協同組合	理事長	白倉 三喜
富山駅南北交流人口創出事業実行委員会	委員長	品川 祐一郎
富山ターミナルビル(株)	代表取締役社長	水田 整
富山地方鉄道(株)	代表取締役社長	辻川 徹
西日本旅客鉄道(株)富山駅	駅長	川岸 宏樹
ブルーバールエリアマネジメント富山	会長	奥野 博之
北陸電力(株)	代表取締役社長	松田 光司
まちめぐりとやま実行委員会	実行委員長	松原 悠大
富山市	市長	藤井 裕久

プラットフォーム構成員に加えて、「富山賑わいプロジェクト実行委員会」や「富山県」「とやま自遊館」「旬りカーポケットみずはた」などの周辺関係者が検討分科会に加わっています。その他、アドバイザーとして専門人材も参画しました。

[専門人材]

団体・企業名	役職	氏名
ハートビートプラン	代表取締役	泉 英明
東京大学大学院 新領域創成科学研究科	特任助教	三浦 詩乃

(2) プラットフォームの活動経緯

実施日		活動
令和3(2021)年	10月24日(日)	オープントークセッション 「駅まちの現在(いま)と未来(これから)」
	10月25日(月)～ 11月19日(金)	社会実験「えきのあそびば」
	10月29日(金)	社会実験「よぞら駅道」
	11月6日(土)	富山のこれからのまちづくり ディスカッションリレー 第1回「“ヒトとマチ”のこれから」
	11月15日(月)	官民連携まちづくり先進地視察
	11月29日(月)	第1回協議会
令和4(2022)年	3月18日(金)～ 21日(月・祝)	路面電車南北接続2周年記念イベント 「つながるWeekend」
	7月3日(日)	官民連携イベント企画 「富山駅南北一体的なまちづくりプラットフォーム× KNB 開局70周年記念事業」
	7月28日(木)	第2回協議会
	8月25日(木)	第1回未来ビジョン検討分科会
	11月9日(水)	第2回未来ビジョン検討分科会
	12月9日(金)	第3回未来ビジョン検討分科会
	1月23日(月)	第3回協議会
	2月13日(月)	第4回協議会

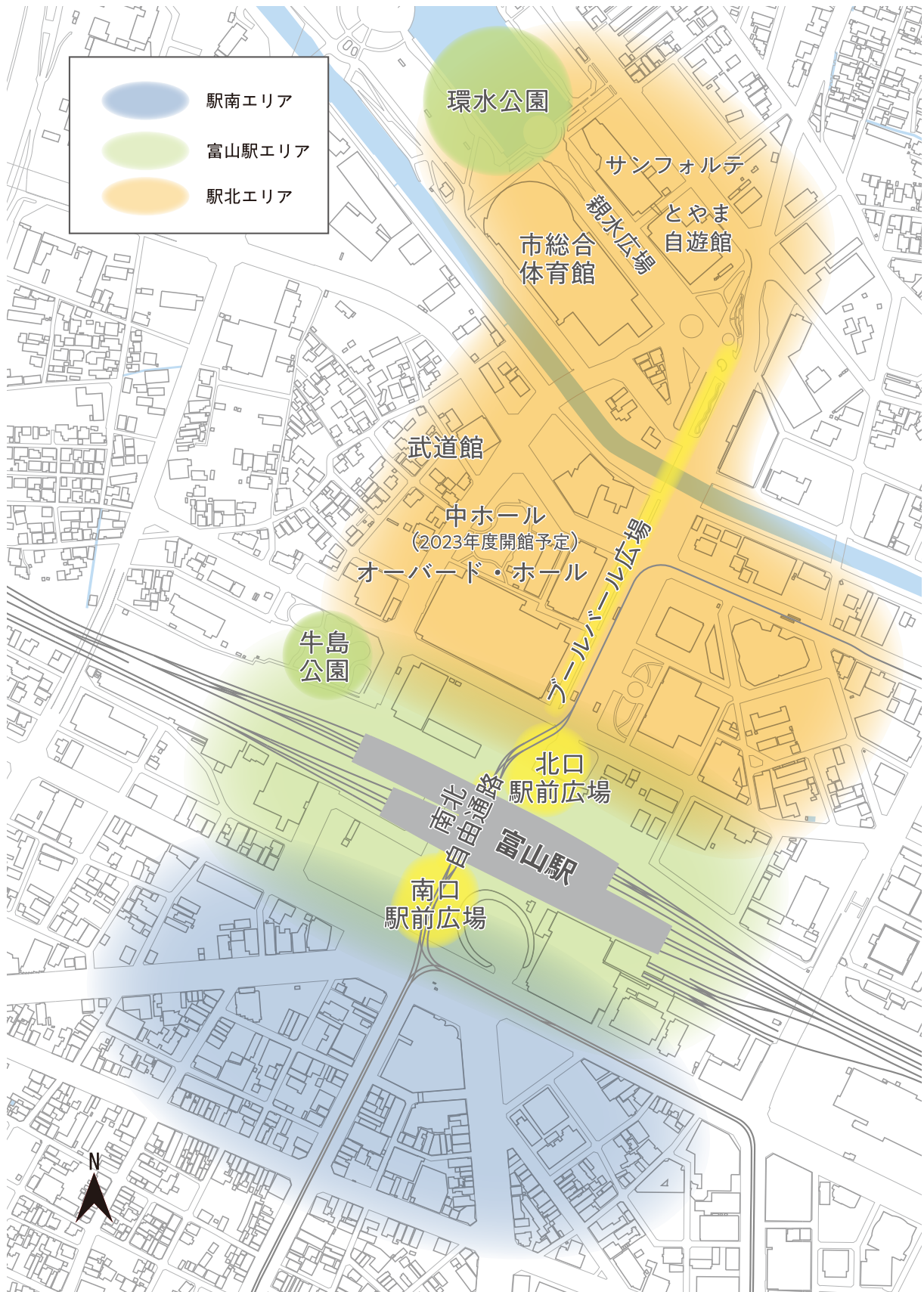
オープントーク
セッション

協議会

えきの
あそびば未来ビジョン
検討分科会

4. 未来ビジョンの対象エリア

富山駅南、富山駅、富山駅北の3エリアとする。



第 1 章

現状・課題

1. 富山駅周辺の分析

(1) 富山駅周辺の強み

① 各エリアでの民間団体等による活動

- ◎富山駅南エリアでは「富山駅周辺開発協同組合」や「富山賑わいプロジェクト実行委員会」が地域の活性化や富山の魅力発信等のためにイベント開催等を行っています。
- ◎富山駅エリアでは、富山駅周辺の賑わいづくりを目的に「富山駅周辺賑わいづくり実行委員会」が活動しているほか、令和3年1月には「富山 myroute 推進協議会」が設立されました。
- ◎富山駅北エリアでは、ブルーバール周辺において新たなにぎわいの創出等を目的に「ブルーバールエリアマネジメント富山」が活動しています。また、「富山駅南北交流人口創出事業実行委員会」が親水広場等でイベント開催等を行っています。

主な活動エリア	組織名	駅周辺での主な活動
富山駅南エリア	富山駅周辺開発協同組合	◎富山駅前グランドイルミネーション ◎ナイトフェスタ等
	富山賑わいプロジェクト 実行委員会	◎ヤットルゾー富山駅前グルメ ◎テラス席営業等
富山駅エリア	富山駅周辺賑わいづくり 実行委員会	◎ゆうぞら駅市 ◎富山駅あったかおもてなしDAY等
	富山myroute推進協議会	◎とやまレールライフフェスタ等
富山駅北エリア	ブルーバールエリア マネジメント富山	◎baulevard cafesta&marche ◎イルミネーション ◎エール飯等
	富山駅南北交流人口創出事業 実行委員会	◎ランクルフェス富山 ◎3×3 BASKETBALL SHAKE THE WORLD TOYAMA等

②再整備によって生み出された都市空間

- ◎富山駅南口広場や富山駅構内の南北自由通路、新たに整備された北口駅前広場はイベントスペースとして利用することができ、多彩な主催によるイベント等が実施されています。
- ◎ブルーバール広場の再整備により、連続した歩行空間が続いており、その空間を活用して環境にやさしく低速で安全なグリーンスローモビリティのモデル運行等が行われています。

③商業・業務・芸術文化など多様な都市機能の集積

- ◎駅南エリアには、飲食店やホテルなどの商業・娯楽機能が集積しています。
- ◎駅北エリアには、富山市芸術文化ホールや市内の大企業のオフィス、近隣には環水公園、県立美術館が立地するなど、芸術文化機能や業務機能が集積しており、昼間の人口が多いエリアとなっています。また、オーバード・ホール中ホールや商業施設・ホテルの建設が予定されています。

④他都市にない利便性の高い交通結節点

- ◎富山駅は南北接続事業により新幹線及び在来線高架下に路面電車が乗り入れることができ、新幹線改札から路面電車電停までフラット(上下移動がない)にアクセスできることから、乗継利便性が高く、広く市民や来街者に利用されています。
- ◎バス・タクシーといった2次交通へのアクセスが容易な駅前広場など、歩行者空間を広く確保し交通結節点としての機能が充実しています。
- ◎富山駅エリアは、交通結節点であり、乗り継ぎや待ち合いでの利用者が多く滞留しています。



ブルーバール広場



環水公園



富山駅南口駅前広場



オーバード・ホール



JR富山駅ビル



牛島公園

(2) 富山駅周辺の弱み

① 団体間での連携の不足や富山駅周辺を統括する組織の不在

- ◎各エリアで活動する団体がそれぞれ独立して動いており、イベントの連携や情報共有ができていません。
- ◎エリア全体を捉えて、富山駅周辺エリアを統括する組織が存在していません。

② 日常的な空間利用の不足

- ◎広い歩行空間が整備されており、休日は催し物やイベント等が開催されていますが、日常的な利用は乏しい状況にあります。
- ◎富山駅北エリアのオフィスワーカーや富山駅で滞留する人々を呼び込むような動機付けが不足しています。

③ 回遊性の欠如

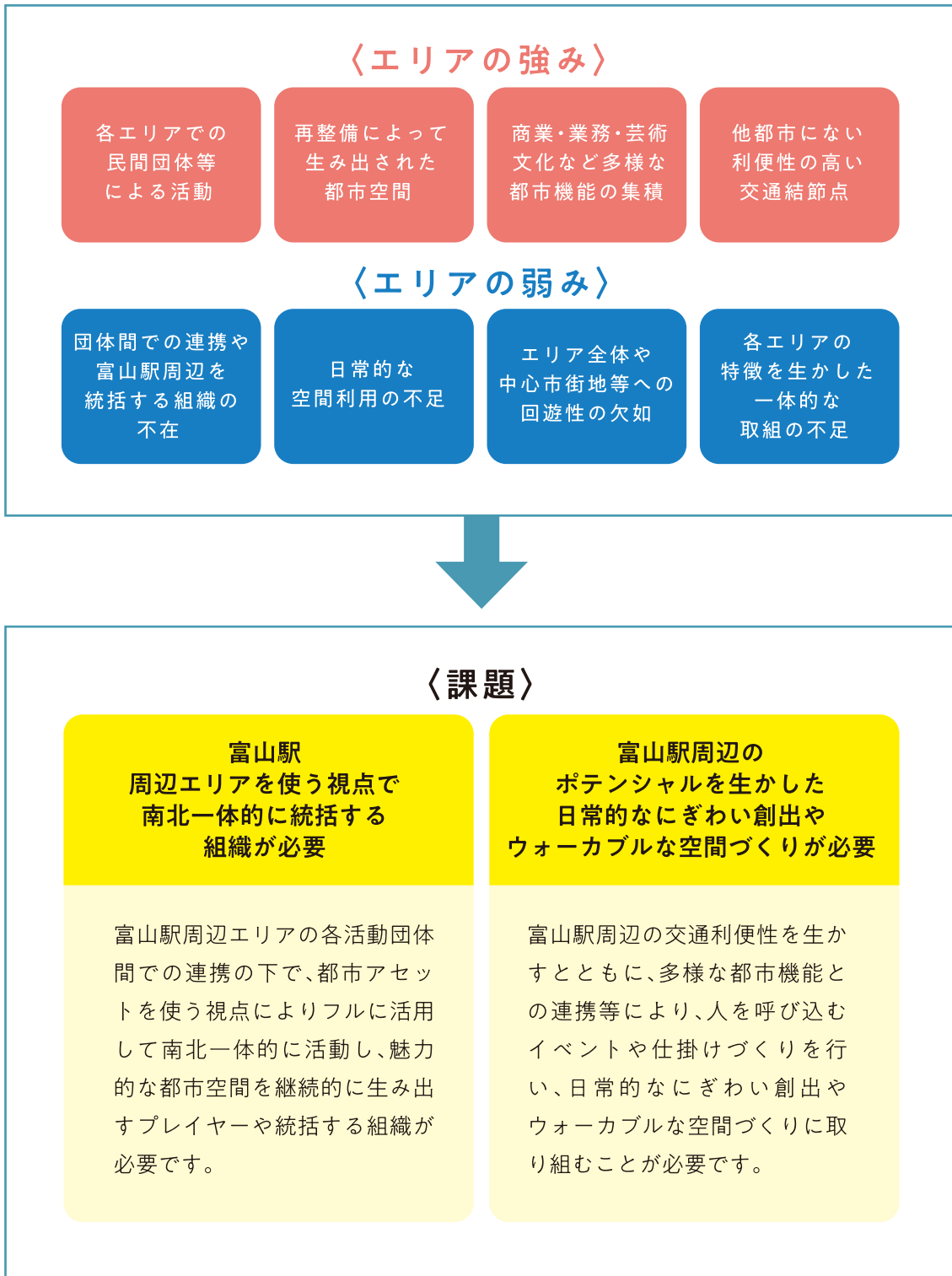
- ◎アクセスしやすいエリアでありながら単一目的の来街に限られており、エリアに集積する都市機能間の相乗効果が十分に得られていません。
- ◎人々の移動とにぎわいを生み出すものとして、公共交通の活用が不十分であり、中心市街地での回遊に繋がっていません。

④ 各エリアの特徴を生かした一体的な取組の不足

- ◎富山駅南エリアは商業施設が集積、富山駅エリアは鉄道事業者や複合施設が立地、富山駅北エリアは企業が立地するとともに、公園や広場等による開放的な都市空間となっており各エリアは特徴が異なります。
- ◎各エリアの特徴を生かしながら富山駅周辺を一体的に捉えた相互作用を生み出す取組が不足しています。

2. 課題の整理

エリアの強み及び弱みを踏まえて、以下のとおり課題を整理します。



第 II 章

未来ビジョン

1. 未来ビジョンの合言葉

つなぐ、むすぶ

まちはいきもの。すべては走り出している。

つなぐ、むすぶ。この未来ビジョンに終わりはない。

「つなぐ、むすぶ」ために、みんなでまざり、えがき、めざめよう。

まざる

- エリアで活動する人と人、団体、関係者がつながり、まざる。情報、気持ち、協働。
- 南から北まで各エリアをシームレスにつなぐ。すき間をつなぎ、そして回遊性を高める。
- エリアの様々なコトをIoTも活用しつつ、一元的に集約発信。市民、来街者とのまじわり。

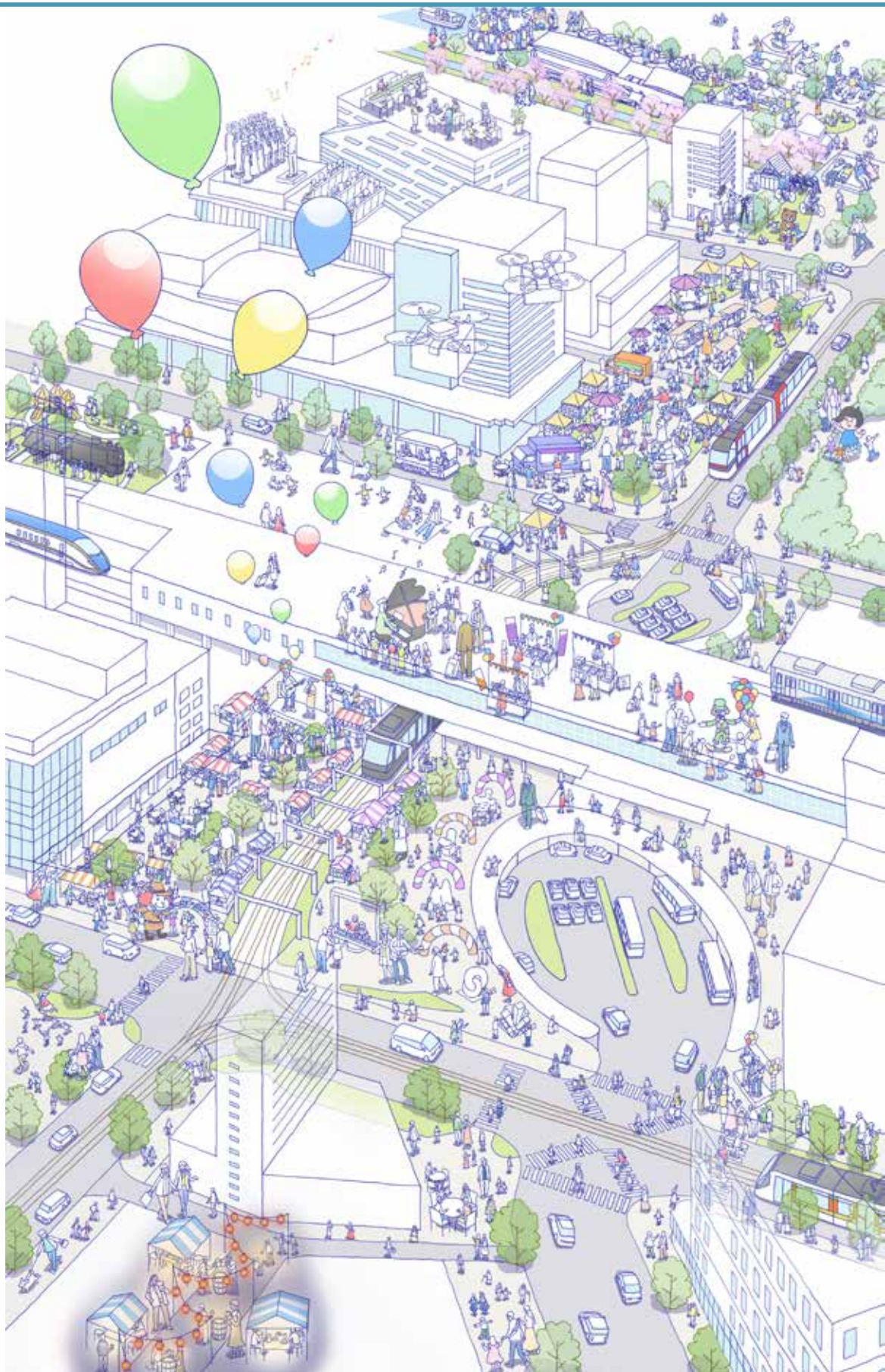
えがく

- 各エリアの特性に応じ、賑わいと居心地を両立する「ゆるやかな」街並みデザイン。
- スポーツ、芸術文化、エンタメなどこのエリアならではのアクティビティ育成。
- 全体をウォークアブルに、さらに先進の交通連携・MAASやスマートモビリティの実験場に。

めざめる

- 民(民間事業者)と民(市民・住民・参画者)と官(行政)との連携の自覚。
- このエリアでの新たな参画者との懸け橋としての自覚。出店者、参画者、活動者を増やす啓発や相談窓口。
- 富山の玄関口を担う自覚。中心市街地・郊外・中山間地を含めた連携。北陸全体における連携。

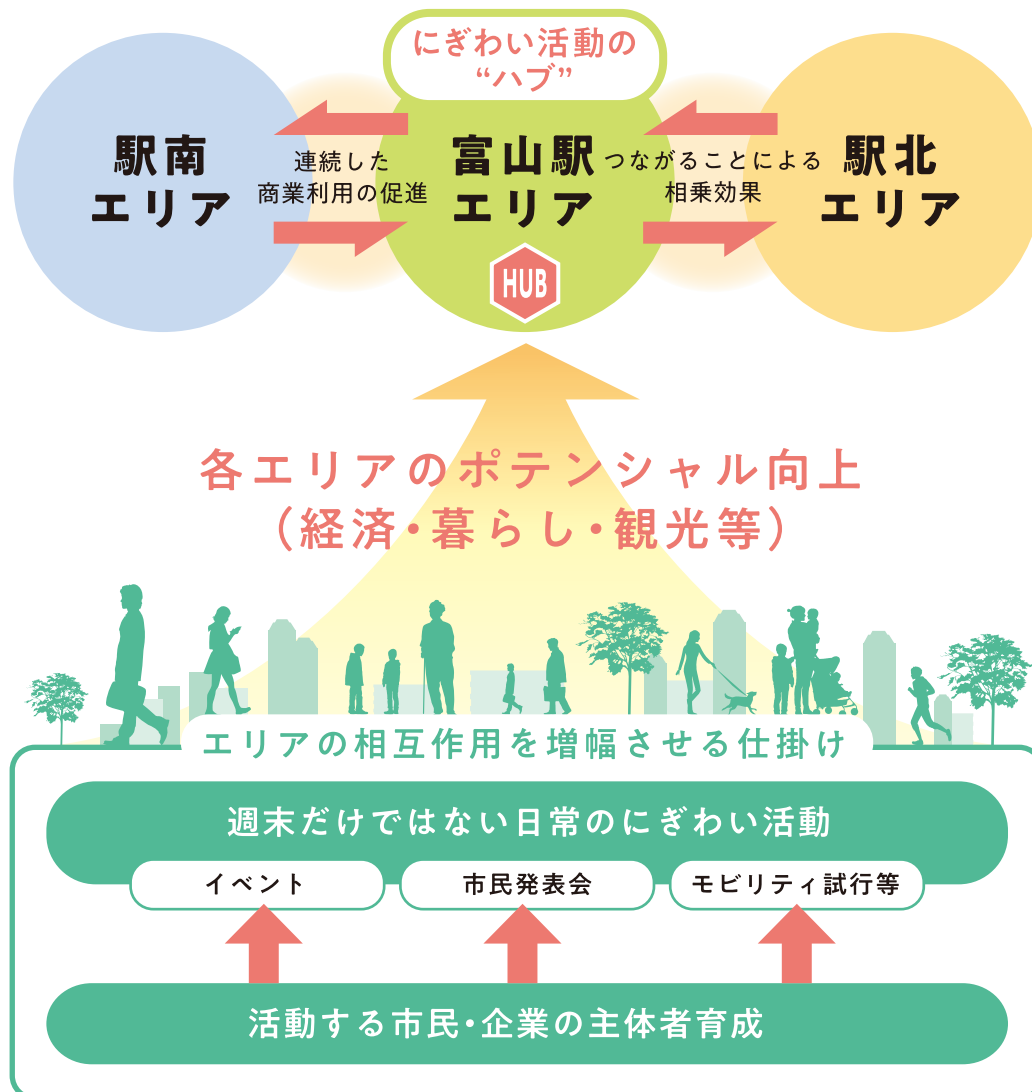
2. 将来イメージ



3. 目指す姿

富山駅周辺に関わる全ての人々が一体となってにぎわいをつくり、誰もが笑顔で活気のあるまち

富山駅を“ハブ”とした にぎわいのネットワークづくり



プラットフォームの主な役割

- ◎情報共有・発信
- ◎駅周辺イベントとの連携・調整
- ◎データ収集
- ◎ポータルサイト開設運営
- ◎公共交通・民間企業の連携・調整
- ◎投資意欲の醸成

プラットフォームがイベント情報の共有・発信や各団体間の連携調整等を行うとともに、主体的に活動する市民・企業の育成に努めます。そしてエリアの相互作用を増幅させる仕掛けとして、これら主体者により週末だけではない日常的なにぎわい活動が生み出され、富山駅を“ハブ”としてつながり合うことにより、富山駅周辺の各エリアのポテンシャルが向上します。

4. 基本姿勢

1 自分ゴトとして自主的に活動する

- ◎富山駅周辺に関わる全ての人々が自分ゴトとしてまちづくりに取り組みます。
- ◎富山駅周辺エリアで活動する自覚持ちながら、民(民間事業者)と民(市民・住民・参画者)と官(行政)で協力・連携します。
- ◎富山駅周辺の各エリアの団体がそれぞれの役割を果たしながら意識を持って、自主的ににぎわいづくりに取り組みます。

2 南北一体による相乗効果を生み出す

- ◎富山駅南北が一体となったことにより、富山駅周辺の都市アセットや都市機能をフル活用して、新たなポテンシャルを生み出し、各エリアの付加価値を高めます。
- ◎富山駅周辺の魅力化に向けて、団体間での情報共有・情報発信や主体的な担い手の発掘育成に取り組みます。
- ◎富山駅を中心とした公共交通ネットワークにより、中心市街地全体に対してにぎわいの波及効果を生み出します。

3 未来へアップデートし続ける

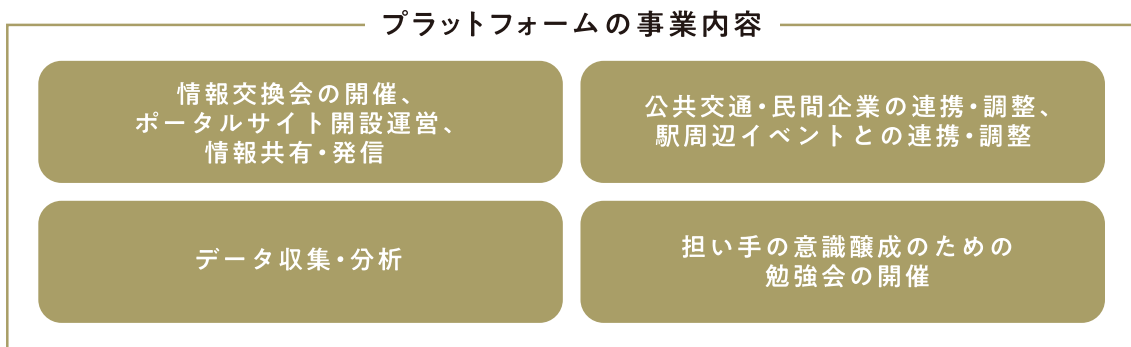
- ◎未来ビジョンは、富山駅周辺エリアの新たな時代におけるまちづくりの指針として、運営体制が整い、富山駅周辺の各エリアのポテンシャルが向上し、目指す姿が実現することを目標とします。
- ◎まちは成長し続けることから、富山駅周辺エリアの環境や成長に応じて本ビジョンをアップデートして、継続して取組を進めていきます。
- ◎持続的(自立・自走)なエリアマネジメントに向けた組織づくりを目指します。

第III章

アクションプラン

1. 新たなプラットフォームの役割

新たなプラットフォームでは、次の事業に取り組みます。

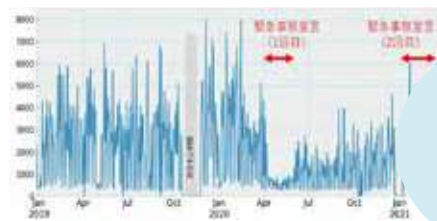


- ◎誰もが富山駅周辺エリアの情報を簡単に収集できるように、情報交換会の開催やポータルサイトを開設運営し、SNSをはじめとした様々なメディアを活用して、情報共有・発信を行います。
- ◎エリアの魅力向上に関係するビッグデータ等の情報を適切に収集・分析して、富山駅周辺エリアの取組にフィードバックします。
- ◎にぎわい創出や社会課題の解決等に向けて、公共交通・民間企業の連携・調整、駅周辺イベントとの連携・調整の場や機会を設けます。
- ◎南北一体的に活動し、新たなアイデアや取組により、魅力的な都市空間を継続的に生み出すプレイヤーづくりに向けて、担い手の意識醸成のための勉強会を開催します。



「uzumakicreative.note」より

ポータル
サイト
開設事例



「クウジツ株式会社 HP」より

IoT/データ
測定・解析
事例



「quruwa_okazakiInstagram」より

リノベーション
スクール
開催事例



「quruwa_okazakiInstagram」より

情報ボード
設置事例

2. 各エリアのプラン

富山駅周辺エリアを一体的に捉えて、相互作用を生み出してにぎわいを創出するため、各エリアにおいてそれぞれの特徴を生かして、各役割に基づくプランに取り組みます。なお、ここに記載しているプランは取組例であるため、今後取組を進める中で発展させてプランを増やしていきます。

(1) 富山駅南エリア

① エリアの特徴と課題

古くから路地に多くの飲食店が集まる繁華街ですが、担い手の高齢化やコロナ禍等の影響により、空き店舗等が増えるなど、不活性な状態も見受けられます。その中でも新しい取組により、このエリアを盛り上げようとしている飲食店のパワーを加速するような仕掛け等が必要です。

② 基本方針

- ◎ 駅南エリアでは、道路空間等の活用によりイベントスペースを確保して取組を実施するなど、富山駅エリアからの仕掛けを充実させて、大人から若者、家族連れも訪れる空間づくりを進めます。
- ◎ 飲食店が中心となって駅南エリアの取組を活性化させてにぎわいを創出し、富山駅から中心商業地区をつないでいきます。
- ◎ リノベーション型の再生や商業者と事業者のマッチング等を活性化させ、連続した街の発展につなげます。

既存の取組

- CiC 前広場でのイルミネーション
- 歩行者天国での周辺店舗が連携した営業 等CiC 前広場イベント様子

CiC 前広場イベント様子



「あいほくりく HP」より

ヤットルゾー富山駅前グルメ



期待される新たな取組例

- 歩行者天国とし道路空間を開放し、
オープンカフェの出店や家族で楽しめるイベント等の開催
- 既存店舗前スペースを活用した飲食スペース等を設置し、
歩行者を惹きつけるようなにぎわい空間を創出
- ホテル利用者等の観光客への食べ歩きチケット配布等による店舗周知
- 富山駅南北の回遊性の向上させる歩くしかけづくり
- 「街バル(夜の飲み歩きイベント)」を開催し、
駅南エリアでのナイトタイムエコノミーの楽しみ方を拡充
- プロジェクションマッピング等の CiC 前イベントの復活

通り沿いの店舗と連携したイベント



「浅草観光連盟 HP」より

食べ歩きチケット



「沼田市観光協会 HP」より

プロジェクションマッピング



「東京ミチテラス Instagram」より

「街バル」イメージ



「VOGUE HP」より

(2) 富山駅エリア

① エリアの特徴と課題

県内最大の交通結節点であり、商業機能を中心としたにぎわいのハブとして人々が集まるエリアです。ただし、富山駅周辺エリア全体を発信するような情報インフラ、各交通事業者や商業者間での連携した取組等が不足しています。また富山駅北口においては、整備された駅前広場におけるソフト面でのにぎわい創出策が今後必要となります。

② 基本方針

- ◎富山駅エリアはエリア全体のハブとなることから、飲食や買い物、イベント等が充実した誰もが訪れて楽しめる空間づくりを進めます。
- ◎人々が集まりやすい高い交通利便性を生かして、周辺エリアへの案内を充実させます。
- ◎他業種との交流等も含めた多様な交流・滞留が生まれる拠点づくりに取り組みます。

既存の取組

- 観光客等にむけた富山の魅力発信(グルメ、お酒、朝市)
- 南北自由通路でのイベント実施(公共交通の利用促進やグッズの販売等)
- 誰もが演奏を楽しめるストリートピアノの活用

ゆうぞら駅市



つなげる myroute



富山の地酒発信イベント



イベントでのストリートピアノの活用



期待される新たな取組例

- 富山駅周辺エリアの拠点としてエリア同士がつながるような定期的なイベントや行事等の実施
- 駅ナカの屋根付き空間を活用した交流や滞留空間の創出
- 駅インフォメーションに加えて、ボランティアガイド等による周辺エリアの魅力発信
- 多彩なモビリティの発着場として活用することによる回遊性向上

市民参加型の駅コンサート



「仙台クラシックフェスティバル」より

駅とまちをつなぐ空間



渋谷駅東口地下広場

複合型発信拠点となる観光案内所



渋谷駅ハチ公広場

パーソナルモビリティの社会実験



「ZMP YouTube」より

(3) 富山駅北エリア

① エリアの特徴と課題

県内最大の交通結節点であり、商業機能を中心としたにぎわいのハブとして人々が集まるエリアです。ただし、富山駅周辺エリア全体を発信するような情報インフラ、各交通事業者や商業者間での連携した取組等が不足しています。また富山駅北口においては、整備された駅前広場におけるソフト面でのにぎわい創出策が今後必要となります。

② 基本方針

- ◎ 富山駅北エリアは富山駅と公園をつなぐエリアであることから、再整備されたブルバール広場での継続的なイベント実施等により、歩きたくなる空間づくりを進めます。
- ◎ 新たなモビリティの運行試行や規模の大きいイベントの実施等により、環水公園や親水広場の利用促進を図ります。
- ◎ ブールバール広場を契機として、民間事業者における広場や道路に面した常設店舗による連続したにぎわいづくりを目指します。

既存の取組

- ブールバール広場を活用したイベントの開催(飲食、ストリートライブ等)
- 親水広場での富山の酒の祭典
- アーバンスポーツ施設等を活用したイベント開催
(3×3 バスケットボール、スケートボードイベント)
- グリーンスローモビリティの運行実験

グリーンスローモビリティ



ブルバール広場 ZONE-A 完成イベント



TOYAMASAKE 日和



スケートボード体験会 & デモンストレーション



期待される新たな取組例

- ブールバール広場等のオープンな公共空間を活用したオープンテラスの実施
- 公共空間における常設的な飲食モールの開設促進
- 環水公園や親水広場でのアウトドアイベント(グランピング、キャンプ等)の開催
- 富山駅エリアから富山駅北エリアまで、
歩きたくなる空間の拡充を目的としたイベント等の実施
- 新たなモビリティの運行試行
- 電気自動車による電力供給

広い歩行者空間を活用したオープンカフェ



〔新虎通りエリアマネジメントHP〕より

道路空間に面した常設店舗



新虎通り

広場・公園を活用したアクティビティ



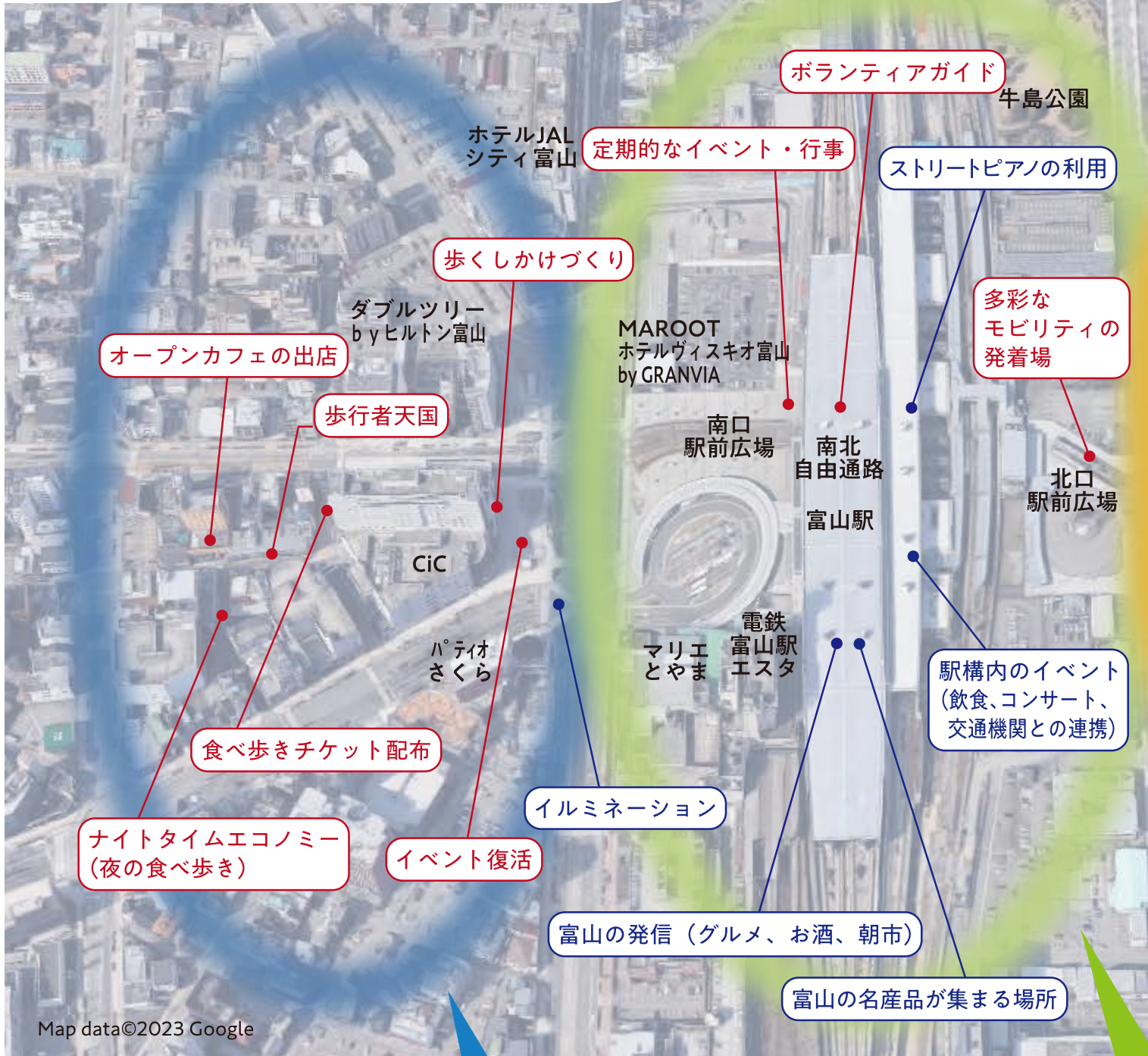
〔品川シーズンテラスエリアマネジメントHP〕より

公園を活用したアウトドアイベント



万博記念公園〔dod.camp HP〕より

「つかう」 アクティビティの取組例



「つくる」 空間イメージ

- ### 駅南エリア
- ◎富山駅エリアからの仕掛けづくり
 - ◎若者、家族連れも訪れる空間づくり
 - ◎イベントスペースの確保(道路空間等)
 - ◎駅から中心商業地区につなぐ



富山駅エリア

- ◎エリア全体における拠点づくり
- ◎交流・滞留の拠点づくり
- ◎他業種の交流
- ◎訪れて楽しめる空間づくり

駅北エリア

- ◎環水公園や親水広場の利用促進
- ◎楽しく移動できる歩行空間づくり
- ◎駅と公園をつなぐ
- ◎連続した空間づくり

第Ⅳ章

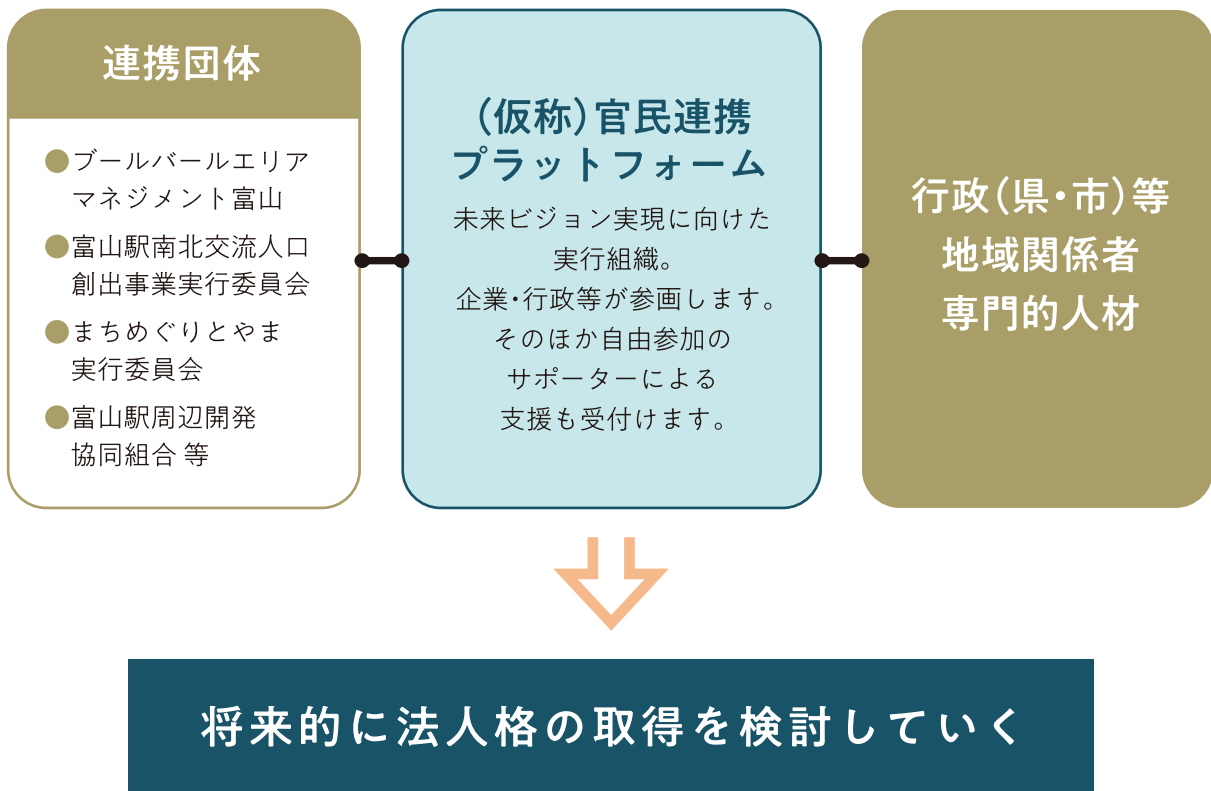
新たなプラットフォームの運営体制

1.運営体制

(1) 多様なプレイヤーが連携できるプラットフォームづくり

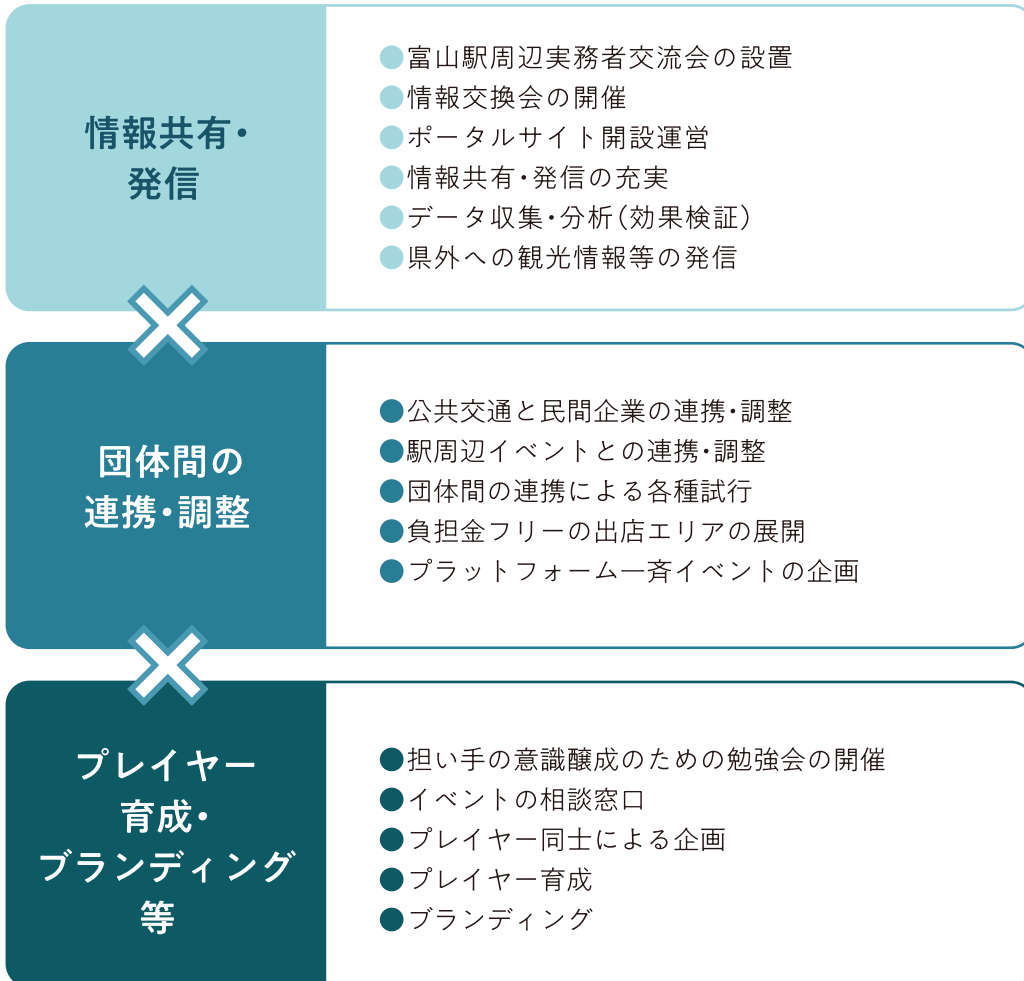
富山駅周辺エリアに関係する多様なプレイヤーが相互に連携して、それぞれが主体的かつ持続的にまちづくりに関与する体制をつくります。

(仮称)官民連携プラットフォームを設立し、各団体のつなぎ役としての役割を担い、富山駅周辺エリアへの関わり方をアシストするとともに、多様なプレイヤーが連携しながらビジョン実現に向けた事業を展開し、会議の場等で情報を共有しながら進め、エリア全体のにぎわい創出や魅力向上を目指します。



(2) 実施プロセス

プラットフォームでは、富山駅周辺エリアにおいて多様なプレイヤーが育ち、連携できるよう、主な役割を踏まえて以下の実施プロセスにより、情報共有・発信からプレイヤー育成等までの事業を進めていきます。



(3) 情報共有・発信

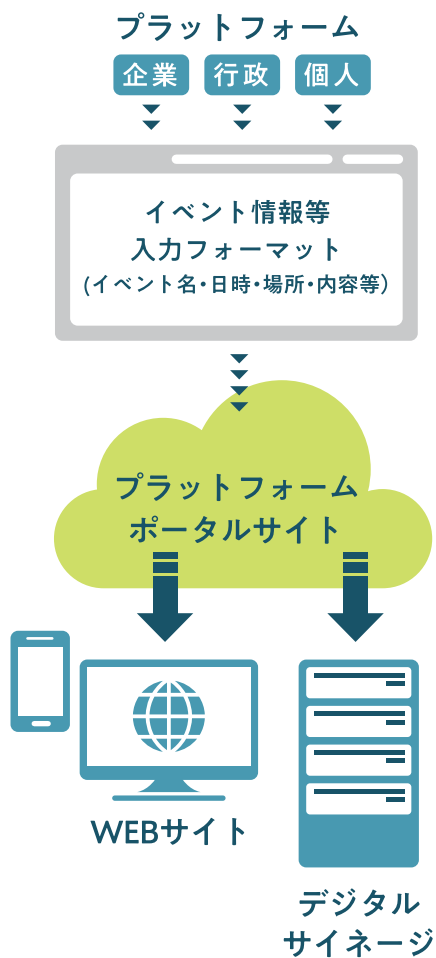
① 情報共有の仕組みづくり

- ◎ 富山駅周辺のイベント申し込み状況や公共空間利用の情報について、富山駅周辺エリアの関係者間で共有するため、「**イベント情報等の入力フォーマット**」を作成します。
- ◎ 実務者交流会や情報交換会において、準備段階からイベント開催等についての情報共有を関係者間で図ります。

② エリア内の情報発信

- ◎ 富山駅周辺で様々なイベントを行っていることが十分周知されていないことから、「**誰もが見やすい一括した情報発信ツール**」を作成します。
- ◎ 誰もが移動したくなる、出掛けたくなる仕組みづくりとして、リアルタイムで富山駅周辺のイベントスケジュールが分かるサービスとします。
- ◎ 他のサイトとの連携や駅構内での情報発信についても検討します。

情報共有・発信の仕組みイメージ



デジタルサイネージ設置事例



渋谷駅東口地下広場

参考資料

社会実験概要

「意識醸成」及び「賑わい創出」の観点から社会実験を実施して、富山駅周辺における官民連携に向けた検証を行いました。

①意識醸成

事業名	概要	結果
駅まちの 現在(いま)と 未来(これから) [令和3年10月24日(日)]	現在(いま)を起点に、駅まちの新たな魅力創出と未来(これから)をエリア内企業のトップと市長が議論しました。 	◎富山駅周辺の整備が進み、魅力が高まりつつある中で、南北一体的なまちづくりに連携して取り組む重要性や意見交換の必要性について話し合われました。 ◎当日は約60名が参加し、内容を共有しました。
“ヒトとマチ”の これから [令和3年11月6日(土)]	富山駅周辺エリア等での今後のまちづくりに向けて、パネリストより他都市等での好事例を紹介いただき、官民共創に取り組む際に必要な視点やあるべき姿などについてディスカッションを行いました。 	◎日常利用の重要性やポイントとして事業者等と小さく始めること等が話し合われました。 ◎若者世代の参加者も含め、これからのまちづくりに対して主体的に参画していきたいとのアンケート回答が得られました。 ◎会場には47名、WEBには26名が参加しました。
官民連携 まちづくり 先進地視察 [令和3年11月15日(月)]	富山駅周辺企業11社の代表者により、先進地視察(新虎通り[東京都港区]、渋谷駅エリア[東京都渋谷区])を行いました。 	◎新虎通りでは道路占有によるオープンカフェやエリアマネジメント団体の設置・運営等、渋谷駅エリアでは公共空間の活用や広告収入のスキーム等について現地を視察しました。

②考察

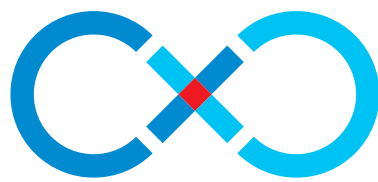
- ◎関係者が定期的に意見交換する場が必要
- ◎富山駅周辺において、企業や個人などそれぞれの形態による参画の機会創出が必要
- ◎駅前広場やブルバール広場など、オープンスペースの日常的な利用について、行政と事業者等による持続的な運営の仕組みづくりが必要

①意識醸成

事業名	概要	結果
<p>えきのあそびば 令和3年10月25日(月)～ 11月19日(金)</p>	<p>駅周辺が新たな目的地となるような「えきのあそびば」づくりを目指し、こども向け遊具の設置などを行いました。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ◎実験期間中、総合的に見て通行量が増加しました。 ◎特に休日の通行量が大きく、多くの親子連れが駅に訪れていました。 ◎アンケートでは、これまで何もなかった空間に遊び場ができたことを喜ぶ回答が多く見られ、子どもの遊び場のニーズが把握されました。
<p>よぞら駅道 令和3年10月29日(金)</p>	<p>既存の「ゆうぞら駅市」と連動した、飲食店やキッチンカーによるナイトマーケットを開催しました。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ◎特にイベントの中心である駅北側にて、イベント中の17時～19時台の通行量は約2.5倍となっていました。 ◎アンケートでは、当イベントのために駅を利用した方は35%でした。
<p>路面電車南北接続 2周年記念イベント つながる Weekend 令和4年3月18日(金)～ 21日(月・祝)</p>	<p>3月18日(金)～21日(月・祝)にかけて、各種団体が主催する様々なイベントを集約した「路面電車南北接続2周年記念イベントつながる Weekend」を開催しました。</p> 	<p>【よぞら駅道】3月18日(金) アンケート回答者すべての方が今後開催された場合はまた訪れたいと回答しており、リピート率の高いイベントであることが確認されました。</p> <p>【えきの食卓・えきのあそびば】 3月19日(土)～21日(月・祝) アンケートでの満足度は8割を占め、子どもも大人も楽しむことができ、賑わいあふれる空間が創出されていることが評価されました。</p>
<p>富山駅南北一体的 なまちづくり プラットフォーム× KNB開局70周年 記念事業 令和4年3月18日(金)～ 21日(月・祝)</p>	<p>官民連携による更なる賑わい創出と今後の体制づくり等の検討に向けて、プラットフォームイベントとKNB記念事業との共同開催を行いました。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ◎KNB 大バザール会場のプールバーレー帯への来場者はおよそ2.2万人(KNB調べ)でした。 ◎駅北側におけるイベント中の通行量は前週の約1.6倍、前々週の約2.0倍となっていました。 ◎えきのあそびばでは、約120人が利用し、前回のイベント時と同程度の利用が確認されました。

②考察

- ◎イベントの開催により人流が増加して、出店者や周辺の売り上げに効果あり
- ◎イベントを継続して開催したり、日常的な賑わいを生み出す運営体制が必要
- ◎富山駅周辺における公共施設利用のルールのある方や運営管理等が課題



トヤマチミライ